

藤沢市総合教育会議 議事録

会議名	令和3年度第2回 総合教育会議
開催日	2022年(令和4年)2月10日(木) 14:00~15:15
場 所	本庁舎6階 会議室6-1
出席者	(市側) 鈴木市長 (教育委員会) 岩本教育長、市村委員、木原委員、飯盛委員、種田委員 (関係職員) 教育部長、教育部参事、教育総務課長、同課主幹、同課指導主事、同課主査、教育指導課長、同課指導主事、デジタル推進室長

【議事録】

事務局(司会)

- ・ただいまから「令和3年度第2回総合教育会議」を開催いたします。
- ・会議を開会する前に、ご来場の皆様にお願いがございます。携帯電話は電源をお切りになるか、マナーモードに設定をお願いいたします。
- ・次に、本日は、傍聴者の方がお一人いらっしゃいます。録音、録画、写真撮影はされないということをお先ほど確認させていただきましたので、よろしくお願いいたします。
- ・なお、会議の記録のために事務局で録音と写真撮影をさせていただきますので、ご了承ください。写真撮影は、傍聴の方のお顔は写らないように配慮いたしますので、よろしくお願いいたします。
- ・続いて、総合教育会議開催に当たり本会議の目的について、改めて確認をさせていただきます。この会議の目的は、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、本市の教育の課題やあるべき姿を共有し、次代を担うすべての子どもたちを市全体で見守り、育む取組を共有する場であります。
- ・コロナ禍ではありますが、子どもたちの日常生活や学びの継続など、本事業の重要性に鑑みて、あえて開催をさせていただきました。こうした状況の中で、本日のテーマは、本市の「GIGAスクールの概要と現在の活用状況について」を予定しております。
- ・それでは、開会に当たりまして、総合教育会議の座長であります鈴木市長から一言ごあいさつをお願いいたします。

鈴木市長

- ・皆様こんにちは。今日は、ご多忙のところ総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から、本市の教育行政にご尽力いただきまして、感謝を申し上げます。
- ・さて、新型コロナウイルス感染症が大変蔓延しておりまして、神奈川県では、まん延防止等重点措置が適用され、3月まで延期されることとなっております。
- ・本市においても、学級閉鎖や保育園の休園等がたくさん出ており、その対応に当たられております関係者の皆様、大変ご苦勞が多いと思います。
- ・また、子どもたちや保護者の皆さんも非常に不安を抱えているという現状ではないかと思っております。こういう中におきましても、学びの保障をしっかりと教育委員会の皆さんにはいただいていると思っております。
- ・本日、GIGAスクールの現状というものをここで共有をさせていただくことは、大変意義深いものであると思っております。日進月歩、すごい勢いでICT化が進んできているのではないかと思っております。
- ・これからも地域の方々や周りの方々とも協力をしながら、さらに高めていければよいと思っております。ICTの環境整備あるいは教育の充実については、来年度予算にもいろいろと配慮をさせていただいておりますけれども、これらがよりよい方向に進んでいければと思いますので、今後とも皆さんと協力、共有していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局（司会）

- ・ありがとうございました。
- ・それでは、ここで昨年の10月1日から教育委員に就任されました種田委員から自己紹介をお願いいたします。

種田委員

- ・皆様、改めましてこんにちは。
- ・ご紹介いただきましたように、昨年の10月1日に就任しました種田多化子と申します。私は骨腫瘍という病気で5年ほど療養生活をしまして、再発を繰り返して、膝に腫瘍が出てきたので、膝の上で切断して、約30年前に義足になりました。その後、10年ほどは家にいて余り動かない生活をしておりましたが、とても動きが悪いので、体力も筋力も弱りまして、そういったときに藤沢市の障がい者スポーツ施設である太陽の家の体育館に思い切って電話をして、障がい者スポーツでお世話になることにいたしました。いろいろ

な方に出会い、力をいただき、障がい者福祉、あるいは障がい者スポーツ、地域福祉でも皆様に元気をいただいて活動しております。そういった障がい者の視点で取り組んでいけたらいいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局（司会）

- ・種田委員、ありがとうございました。
- ・それでは、事務局から本日の資料の確認をさせていただきます。（資料確認）
- ・ここからは座長であります鈴木市長に進行をお願いします。

鈴木市長

- ・まず、議事録署名人の決定について、事務局の説明をお願いします。

事務局

- ・今回は、鈴木市長と岩本教育長にお願いしたいと思います。

鈴木市長

- ・今回の議事録署名人は、私と岩本教育長ということでよろしいでしょうか。（「異議なし」の声あり）
- ・それでは、そのように決定いたします。

鈴木市長

- ・それでは、議事の（１）に入ります。事務局の説明をお願いします。

事務局

- ・それでは、議事（１）「G I G Aスクールの概要と現在の活用状況について」、本日は、関係職員として教育総務課と教育指導課の職員が出席しておりますので、担当課からご説明をいただきます。
- ・それでは、よろしくお願いいたします。

教育総務課指導主事

- ・改めまして、みなさんこんにちは。
- ・それでは、「G I G Aスクールの概要と現在の活用状況」について、スクリーンを使用し、ご説明いたします。
- ・まず、スライド①のG I G Aスクール構想の「G I G A」というのは、「グローバル アン

ド イノベーション ゲートウェイ フォー オール」で、直訳すると、「すべての人にグローバルで革新的な入り口を」ということになります。多様な子どもたちを誰一人残すことなく、子どもたち一人ひとりに公正に個別最適化され、資質・能力がより一層確実に育成できる教育 I C T環境を実現することを目指しており、令和の学びのスタンダードとして1人1台端末の活用が位置づけられております。

- ・ 1人1台端末がスタンダードと呼ばれる背景は、1つにはこれからのデジタル社会「Society5.0」と言われるものが挙げられます。この説明については、さまざまなものがインターネットにつながり、ロボット、A Iなどが日常的になるということで、これから生きる子どもたちは、これらを使いこなす力が必要になってくると考えられます。
- ・ 現在でも情報格差というのが問題になっておりますけれども、今後、こういう社会になっていくにつれて、恐らく情報格差というものが課題となっていくことが想定されると思われれます。そこで我々としては新学習指導要領に記載されている資質能力である情報活用能力へというのが、これからの社会にとって必要であると考えております。
- ・ スライド②については、O E C DのP I S AのI C T活用調査の結果になりまして、年度としては2018年になります。質問項目としては、「他の生徒と共同作業をするためにコンピュータを使うか」という問いに対しての答えになるのですが、日本は一番右に書かれているところですが、「ほぼ毎日」という値が他の国と比べるとかなり低いということが見てわかるかと思えます。
- ・ 日本の子どもたちは全くI C T機器を使っていないかということ、もちろんそういうことではなくて、ネット上でのチャットやゲームで使われている割合を比べると、他の国と比べると日本は高いという結果になっています。
- ・ その一方で、コンピュータを使って宿題をするとか、学校や勉強のためにインターネットのサイトを見るということについては、他の国と比べても、平均と比べても低い位置づけになっているということがわかると思えます。このような背景から今後1人1台端末の活用をしていく必要があると我々も考えております。
- ・ 次に、G I G Aスクール構想と新型コロナウイルスについての時系列での動きを図にしたものです。コロナ対策に1人1台端末が整備されているのではないかというお話をいただくこともあるのですが、ここに書いてある時系列をご覧いただければおわかりかと思えますけれども、そもそも新型コロナウイルスが流行し始める前の段階である令和元年12月に、このG I G Aスクール構想は公表されているわけです。
- ・ その後、令和2年の2月ごろから新型コロナウイルスが拡大し始めたということで、その順番が違うことはおわかりかと思えます。まずは子どもたちに必要な力を身につける、そのためのG I G Aスクール構想の整備であるということをご強調させていただきたいと思っております。
- ・ 次に、G I G Aスクール構想における本市の整備についてですが、まず、小学校になりませんが、低学年と中高学年の整備端末はこのような形となっております。左側の低学年に

については、Windows タブレットですが、これはG I G Aスクール構想の前から学習用端末として整備されているものです。それと Chromebook (タブレットタイプ) ですが、この2つは比較的軽量のパソコンとなっておりますので、低学年でも持ち運びが容易であるというようなタイプです。右側の Chromebook については、ノートパソコンタイプということで、画面としては少し大きめになり、重量も他と比べるとありますけれども、タイピング等がしやすいのと、画面を使った学習がより高学年になると増えるということを重視して、このような形になっております。

- ・続いて、中学校になります。中学校についても小学校の中高学年と同じで、ノートパソコンタイプの Chromebook を導入しております。また、一部の学校では windows タブレットが使用されている学校もございます。
- ・続いて、白浜養護学校です。障がい特性に合わせたアプリケーションが充実しているところから、平成 29 年度の整備からアイパッド (i p a d) を整備して活用を進めています。G I G Aスクール構想でも同様にアイパッド (i p a d) の追加導入をさせていただきました。
- ・続きまして、ネットワーク増強整備です。端末の整備については、先ほどのような整備をさせていただきましたけれども、やはり端末を使うに当たっては、ネットワークが必要なわけですが、昨年度、増強させていただいたのですが、これまでのネットワークについては、左側書いてありますように、各学校から防災センター経由でインターネットにつながるということで、すべての学校が一旦集約されているような状態でしたので、各学校のネットの使用状況によって他の学校も影響してしまうような環境でしたが、現在の環境としては、学校から直接インターネット環境に行くような形で、学習用のネット環境を整備しておりますので、ある学校がたくさん使っているからということで他の学校に影響するということは、現在ではございません。
- ・続きまして、授業支援ソフトになります。授業支援ソフトについては、大きく2つありまして、グーグル・ワークスペース・フォー・エデュケーション (Google Workspace for Education) とロイロノートというものを使っております。グーグル・ワークスペース・フォー・エデュケーションについては、主にオフィス機能ということで、文書作成、表計算、プレゼンテーション等が使えるようなアプリケーションが入っております。また、コミュニケーションツールとしては、ビデオ会議等ができるものが入っております。また、オフィス機能に入っている文書作成や表計算等は共同編集ということで、ネットワークでつながることにより、リアルタイムで編集作業を一緒に行うことも可能となります。
- ・ロイロノートにつきましては、後ほどご紹介いたしますが、簡単に申し上げますと、デジタルノートということで、先生と子どもをつないで、課題のやり取りや子ども同士でもノートの共有等が可能となります。
- ・次に、クラウドシステムの活用についてですが、これらのシステムはクラウド上にデータが保存されますので、学校で行った授業を家に帰っても端末を通して復習することが可

能です。その際には学校で配布したパソコンではなく、家にある端末等を使って行うことも可能であります。

- ・ここからは実際、学校でどのように使われているかということをお話したいと思います。まず、パイロット校である本町小学校、秋葉台中学校の活動の様子を見ていただければと思います。(授業風景の動画を視聴)
- ・これは本町小学校の理科の実験の様子です。タブレットを使って実験の結果を写真に撮ることで、子どもたちがより正確に実験の検証をすることも可能となります。
- ・これは音楽の授業です。先ほどご紹介したロイロノートを使った授業が展開されておりましてけれども、ロイロノートにはカード1つ1つに音を記録することができますので、例えばこの端末を使って、これまでは教室の中で一斉に同じ曲を全部聞いているような授業をされていたと思いますが、端末を一人ひとりが持っているということで、曲の聴き比べというのをそれぞれのタイミングで、それぞれの端末を使って、子どもたちがしているという状況です。2種類の曲を聴き比べているという場面です。
- ・これは算数の授業で、統計の授業をしておりました。例えば靴のサイズ23という子がどのくらいいるのかというのを、端末のアンケート機能を使って、その場ですぐにアンケートを取って、そこから統計を取るということをこの授業では行っておりました。それが正しい答えだったのかというのを、一人ひとりに聞きながら確認している男の子もいましたけれども、アンケートという機能を使いながら、効果的に端末を使うことも今では行っております。
- ・続きまして、中学校になります。教室ではかなり静かに行われておりましたので、ほとんど音は入っておりません。国語の授業になりますけれども、漢詩を読んで、その漢詩を4コマ漫画として作成するというような授業を、この授業の前に行っていたということで、その作文を、端末を使って今、共有をしているような状況です。本来、子どもたちがつくった4コマ漫画の作品を共有するとすると、教室にいる例えば40人分のプリントを1人がめくりながら確認しなければいけないものを、端末を使えば紙は必要なく、端末のページをめくることで、どの子がどういう作品をつくったかということを確認することができるかと思います。この子はいろいろな4コマ漫画を見ながら、その作品の内容をより深めていくというような授業になっています。
- ・次は英語の授業風景です。英語については、先生の黒板の様子を画面上に映しているという状況です。場所によっては先生の書いてある黒板の様子が見づらいということであれば、手元の端末でそれを確認することが可能であると、そういう使い方をしています。端末の顔の部分、耳とか目とかの部分の単語が見えなくなっているとか、隠されている状態なんですけれども、答え合わせをしながら、端末の答えを、目隠しされている部分を解除して答えを見ているという授業展開をされておりました。
- ・次は体育授業です。体育でも端末がかなり活用されております。まず、マット運動の様子を子どもたちは自分の端末で、動画で撮影するというような形で使われています。そうす

ると、このような形で1人の子が動画を撮影しながら、他の子たちは自分たちの競技を練習するというような使い方をしています。そして自分の競技が終わった後に、撮影した動画で自分の修正部分を確認してまた次の練習をするというような使い方が中学校ではされておりまして。

- ・ここからは教育指導課のご説明になります。

教育指導課指導主事

- ・昨年の夏休み明けから新型コロナウイルス感染症の第5波のさなかに、やむを得ず学校に登校できない子どもたちに対して、オンライン学習のニーズが非常に高まってまいりました。第6波が来ることも視野に入れ、どの学校でも一律に学びの保障ができるよう、教育委員会としては、各学校にオンライン学習を取り組むための具体的な方法などを示すとともに、保護者の皆様へご家庭でもオンライン学習への協力をお願いしてまいりました。
- ・また、通信環境が十分でない家庭にはWi-Fiルーターの貸し出しを行っております。さらに、学校がオンライン学習を行う際の人的な支援として、介助員の追加配置をいたしました。オンライン学習を進めるため、学校では子どもたちに端末を持ち帰らせ、各家庭でWi-Fi接続状況を確認する調査を行っております。また、Web会議システムのGoogleミートを使用し、実際に自宅と学校でのやり取りを確認した学校もあります。学校では授業でGoogleクラスルームやロイロノートを使用するなど、1人1台端末の活用慣れてきているところでございます。
- ・実際、コロナ禍などでやむを得ず学校に登校できない児童生徒に対して行われたオンライン学習をご紹介します。(スライド説明)
- ・これは小学校のケースですが、学級の数人の児童が登校できないときに、Googleミートのライブ配信で、朝の会を行っている様子です。黒板には自宅にいる子どもたちを映し、教室の子どもたちとあいさつを交わしていました。また、授業を開始しながら端末を通して授業に参加させる取組も見られました。学級閉鎖となったクラスでは、自宅学習用の時間割を組み、健康面も考えてライブ配信や課題の提示など組み合わせながら、オンライン学習を進めておりました。
- ・次に、これは中学校のケースです。端末を固定して黒板と授業を行う教師を映し、1時間目から6時間目まで常時配信しているものです。教科によって指導教員は変わりますが、授業の様子は流し続けるという取組を行っております。各学校で取組は進んでおりますが、一方では対面で生徒の様子を重視して授業をしながら、一方では端末でつながっている生徒とやり取りをするといったいろいろな形が難しいという声や、担任が濃厚接触者等で自宅待機となる学級においては、実施することが難しいというような課題も見えてきております。

教育総務課指導主事

- ・続きまして、今後の取組と課題です。「これからの未来は」ということになるのですけれども、5年、10年先ということを考えてときに、デジタル社会ということで、テクノロジーが進化していく時代を迎えるわけですが、その際に情報格差というものが、より一層情報活用能力というものが必要になってくると考えております。その情報活用能力というのは、学校では教科横断的に育成ということで、特に数学、理科に限らず国語や社会、先ほど4教科と体育の方でも使っている様子を見ていただきましたけれども、それらの教科の中で、それぞれで使っていく中で育成していきたいと思っております。
- ・あわせて情報リテラシーと情報モラルですが、学校から貸与している端末及びアカウントについては、学校環境下の中で委員会を含めて管理している端末アカウントでありますので、そこで何かしら失敗をしても我々の方で詳細等はつかむことができます。
- ・また、生徒間トラブルということも考えられるかと思っておりますけれども、それについて、どのようなやり取りがあったかということも必要に応じて調べることができる中で、今後、子どもたちが大人になっていく中で、そこで失敗するのではなくて、学校環境下の中で恐らく失敗もあるかと思われましても、そういうところから指導につなげていきながら、情報モラルを身につけてもらいたいということと、あわせてこれまでもドコモとか警察の方に来ていただいて、毎年、情報モラルの教育はやっております。これも続けながら、1人1台端末を効果的に使っていく必要があるかと思っております。
- ・それから昨年度、総合教育会議にも来ていただきました平井先生も、とにかく使ってみることが大事だとおっしゃってございましたけれども、先ほど申し上げたように、まずは使っていただいて活用を進めていく、そこを我々としては強調させていただきたいと思っております。
- ・そして使っていく中でさまざま課題があります。それに対して我々として学校への支援体制ということを最後にお話いたします。まず、ICT支援員ですが、現在、ICT支援員を小・中・特別支援学校に派遣しております。その中で、主な業務を書いております。さまざまな支援をICT支援員にさせていただいております。特に学校の先生においては、授業の準備を共にしていただいたり、中には授業に入ってもらって、子どもの操作を手伝ったりとか、そういうこともしていただいております。
- ・続いて、情報共有ということで、先生方にもアカウントを一人ひとり付与させていただいております。これまで先生方が情報共有する場というのはなかなかありませんでしたが、学校を越えて、今行っていることを共有するのがなかなか持てない中で、先生方も1人1つアカウントを持つことで、学校の垣根を超えて情報共有をして、どういうふうに端末を効果的に使えるのかということを先生方の中でも話し合っただけのような場を我々としては設けています。
- ・最近になっていろいろな形で「こういうことをしてみました」というような情報等もチャットルームにあげられて、先生方も恐らく活用されているかと思われまします。これからはパ

イロット校での実践を初めとして、我々としては学校の情報事例というのを情報発信させていただいて、先生がどういうことをすると効果的に授業ができるか、その部分がなかなか見つけきれないという方もまだまだいらっしゃいますので、我々としては、そういう情報の発信を今後とも続けていきたいということと、先ほどお話したICT支援員の充実ということで、次年度も、今年度よりも増して支援員の派遣回数が増えておりますので、さらに支援の充実につなげていければと思っております。

- ・あわせて教職員の研修も引き続き進めさせていただいて、端末の使い方とか、さらに新しいものが国からも示されている部分もありますので、そういうことを含め、これからも先生方の研修の充実をしていきたいと思っております。スライドの説明は以上となります。
- ・続いて、ロイロノートのご紹介をさせていただきます。実際、ロイロノートの画面はこういう画面になっています。青い部分が子どもの机みたいなイメージになるのですが、その机の上で幾つかカードを使って、このカードのやり取りで双方向での授業をすることができます。
- ・例えばこの黄色いカードに、「今日の朝ごはんは何ですか」と書かれているものを、「送る」というマークを押すと、教室の人数分を送ることができます。資料を送ると、その子にその資料が行くわけです。そうすると、その子は資料を受け取って、「朝ごはんは何ですか」という質問に対して、答えを書いて、ここの提出箱に送るわけです。その提出箱を開けてみますと、そこに提出してくれた子どもたちの答えが一覧で載るわけです。例えばこの子はこう書いたんだということを示して、学校側のプロジェクターを使って、ある子の答えを共有することが可能となります。そして順番に見ることも可能なんですけれども、例えば幾つか選んで比較対照を押すと、幾つもここに表示することができて、この子はこういう答えを書いた、この子はこういう答えを書いたという比較も簡単にすることができます。これを今までの紙の授業でやろうとすると、かなり難しいのかなということですが、こういうことができることによって、いろいろな効果が考えられると思うのですが、なかなか手を挙げて発言できない子については、ここで例えばその子が書いた内容を映し出してあげることによって、その子はこういうことを考えているんだ、すごいよね、というような授業も今後はできるのではないかと。名前がここに書いてありますけれども、名前を伏せて出すことも可能ですので、いろいろと配慮ができる部分ではございます。ロイロノートの質問の1つとしてはこのような機能がございます。
- ・これはPDFファイルです。先生がPDFファイルを取り込むと、ここにPDFファイルが入って、これが子どもたちの方にお渡しすることができます。さらにタッチ機能を使ったりすることで、数字をそのまま書くことができ、ペン機能があって、答えをこういうふうに書いたものを提出すると、先生の方にこの答えが行くということで、こういうことをすると、家庭にいる子どもにもリアルタイムでこの紙が届き、その内容を子どもの方もリアルタイムで先生に返すことができるというような機能が入っております。
- ・また、この機能はアンケート機能になりますけれども、アンケートで回答するようなカー

ども入っております。一部のご紹介になるのですが、こういう形で双方向でのやり取りが可能なものがデジタルノートと言われるロイロノートになります。

- ・もう1つの紹介は、中学校で導入されているのですが、デジタルドリルというのがあります。先ほどはデジタルノートになりますが、こちらはデジタルドリルということで、端末上でドリルをすることができるソフトです。これまでは紙の本型のドリルノートというのを使って勉強していたと思いますが、もちろんハイブリットでそれを使いながら、こちらでも使うこともできます。例えば教科から単元を選んで問題を解くことができるわけです。選択式になっていて、選ぶようになっております。この内容については、答え合わせ等をすると、その場ですぐに答えを把握することができるということと、あわせて問題にそれぞれ解説が付く。この内容は既に先生の方にもこの子がどのくらい勉強したかというのがダイレクトで届くということで、ノートでの課題のやり取りと比べて、そのスピード感というのがありますし、あとはどうしてもノートでのドリルになってしまいますと、先生が採点して、子どもに返すまで、次の教科の学習ができないということもあったというのがありますので、ひとつここは効果的に使っていただくと、より一層充実するかなというような内容でございます。以上で、説明を終わります。

鈴木市長

- ・説明がございましたが、皆様からご質問やご意見をいただきたいと思っております。

市村委員

- ・ご説明ありがとうございました。
- ・ご説明いただいたアプリケーションが操作しやすそうで、子どもたちがとても楽しく学べるのではないかと思います。それから資料の中で、ICT活用調査の結果、日本が最下位ということでとても残念ですけれども、これは3年前の結果なので、GIGAスクール構想の推進が早まった今は、もっと数値は伸びているのではないかと思います。
- ・それと動画で見せていただいた本町小学校の子どもたちが、すらすらとタイピングして資料作成をしていることから、日本の児童生徒のポテンシャルはとても高いと思っています。あとはどれだけ大人が活用の機会を提案できるかだと思っています。1から100まですべて大人が準備して提供するというのではなくて、主体的に活用できるようアドバイスするというイメージです。そこは学校だけではなくて、家庭も含めて社会全体で示してあげられるといいなと思っています。
- ・以前、ICT機器を利用するに当たっての健康面への配慮について、全体的な指針は、文部科学省から示されている児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブックを全校に周知して、環境整備や姿勢などの指導を示していると伺っています。私もそのガイドブックを読んでみました。ICT機器を使う際の姿勢の悪さだったりとか、目の

疲れなどは、今は改善しているけれども、私も仕事をしていてすごく悩まされた時期があります。ガイドブックの中の専門家の意見として記載されていたのですが、今後、学校での活用機会が増えると、子どもたちが学校でICT機器を利用する際の姿勢が習慣化されて、生涯にわたってのICT機器利用時の姿勢につながる可能性があると言われている専門家が書いておりますが、私もそういうふうに考えています。適した姿勢の指導をしていただけているということは、Society5.0の社会を生きていく子どもたちにとってとてもありがたいことと感じています。

- ・連続使用を30分までにしていると言っているのですが、あまり影響はないかと思っておりますが、先ほどの動画を見て、窓際の児童生徒の端末のスクリーンに光が当たっていて見えにくいことはないのかということと、前にあったスクリーンの真上に電気がついていたので、角度によっては見えにくい児童生徒がいるのではないかと気がになりました。また、窓はしっかりカーテンを閉めていたけれども、そのカーテンに厚みがなく光っているように見えたので、厚みのあるカーテン、もしくは遮光カーテンの整備が必要なのではないかと思いました。もし、そういった要望が出ていたら、お伺いしたいと思います。

教育総務課指導主事

- ・お話の光の部分ですけれども、画面上では少しわかりにくい部分があったかと思われませんが、まず、端末の方についてはノングレアという光の反射を抑えるような仕組みを画面に採用しております。あわせて学校も前の方にスクリーンを映すような形になっておりますので、遮光カーテンについては、各学校には教室前半分が覆われるような形の遮光カーテンの配布をしております。そこをうまく使っていただいて、すべて真っ暗にしてしまうと、また、それはそれで目への影響があるかと思っておりますので、そこをうまく使っているような状況でございます。

市村委員

- ・既にしっかり整備されているということで、ありがとうございます。

種田委員

- ・ご説明ありがとうございます。
- ・今のご説明の中で、こういうものが進んできたと言っていますが、すべての子どもたちということで、白浜養護学校とか特別支援学級の子どもたちにもICT機器をいただいているという状況だと思いますが、特に障がいのある子にはすごく得意な子もいれば、苦手な子もいらっしゃると思うので、ICTの支援員がいらっしゃるということですが、その方々のご指導は大変だと思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。

- ・コロナの感染状況によっては、こういうものが普及しますと、教育保障ができてよいと思っております。いろいろ進まないところはあると思いますが、今後ともよろしく願いたいします。

飯盛委員

- ・ご説明ありがとうございました。
- ・これからのとても大切な政策だと思っております。GIGAスクール構想は、コンピュータを導入するということを通じて徹底的に自分で考えて行動できる力、そして問題を自ら発見して、それを解決していけるような力を、ICTを使って養っていくというのが主眼だと思っております。そういうために主体的、また、対話的な学びを促進するための道具としてのICTだという位置づけであって、これはまさにこれからが本番だと思うのですが、どのように活用していけばいいのかというところを、是非皆さんと一緒に考えていくことが必要になってくると思っております。
- ・先ほどの説明の中でOECDのPISAの調査があって、日本においては、学校に関しては、ほとんど子どもたちは使っていないけれども、家でのゲームとかではかなり使っているという統計の調査の結果がありました。本当にこれを教育において活用するというのは当たり前ということだと思うので、学校生活におけるいろいろなシーンでこのICTを活用するということに、自然に持っていくというようなことも考えていく必要があるのではないかと考えています。
- ・さっき申し上げたような主体的、対話的な学習、そして今、よく言われているような反転学習とかプロジェクトベースラーニングとか、そういったことを考えながら、みんなでコラボレーションしながら進めていくようなタイプの学習を取り入れるときに、今、説明の中にあったようなGoogle・ワークスペースなどをうまく使いながらやっていくという仕組みなどを、いろいろなところで取り入れていただくと、まさに問題を自分で発見して解決する力、そしてみんなと力を合わせていくような能力などを育むのに役に立っていくのではないかと考えています。
- ・そういった中で、これは本当に大切なところですので、最後のページの「これから」というところにある「パイロット校での実践をはじめとした良好事例の共有」というところが非常に重要だと思っております。まさに今、ご紹介いただいたようなベストプラクティスをどうやって普及させていくのかというところがポイントなのかなと思っております。そのためにはこういう活動を通じた、量的なものに限ることはまったくないのですが、メリットや効果、先生方への効果などのメリットもあるでしょうし、子どもたちに対してのメリットもあるでしょうから、そういったことをしっかりと打ち出しながら、ベストプラクティスを多くの先生方に知っていただいて、実践をしていただくということがこれから求められていくのかなと思います。
- ・そしてそれがテクノロジーを導入することが、学校や子どもたちのコミュニティ全体が活

性化して、それがまたテクノロジーの活用につながっていくという、いわゆる共進化です。テクノロジーもだんだんよくなって、学校コミュニティ、先生方・子どもたちを含めすべての人たちがよくなっていくという、お互いが相乗効果でよくなっていくという状態をつくり上げていくことが大事だと感じました。さっき申し上げたベストプラクティスをどうやって多くの先生方に普及させていくかというアイデアなどありますか。

教育総務課指導主事

- ・貴重なご意見、ありがとうございます。ご質問にありました「良好事例の共有」というところでお話を申し上げますと、スライドの方に一部載せさせていただいた、例えば全校の先生ができるチャットですが、グループの中での共有というのが1つございます。お話の中で紹介はしていないのですけれども、実は先生方で閲覧できるホームページ等がございます、そのホームページの方でも「事例の共有」というページも設けております。そちらの方を先生が自由に閲覧できる状態で配布をさせていただいているのですが、先生方は本当にお忙しい日々の中で、なかなか閲覧されているところを確認する時間がない部分があると思うので、こちらからの情報発信の仕方、それ以外の部分についても今後いろいろ検討させていただきながら、共有していきたいと思います。なかなか先生が集まる機会が今、つくれない状況でもございますので、そちらについてもいろいろな発信の仕方を今後とも考えていきたいと思っております。

教育指導課指導主事

- ・つけ加えさせていただきますと、今、紹介があったように、チャット機能とかも使いながら、先生方には情報発信しているところではあるのですけれども、なかなかキャッチしていただけないというような実情がございます。そうした中で、すそ野を広げていくということは大事なところであると考えておまして、その中で教育文化センターの方で情報の研究部会を発足して、どのようにして先生方に広げていくかといったところを研究していくところも考えているところでございます。また、授業づくりそのもののところでもファシリテーター的な面での授業づくりということでの研修も必要であると考えています。

木原委員

- ・ご説明ありがとうございます。
- ・自分自身がどちらかというとアナログな人間だと思っておまして、その中で20代のころにパソコンが普及し始めたり、その後インターネットの社会になって、その仕組みがよくわからないままに使う中で、使っているうちに新しいものを見つけてみたり、これはこう使えるんだということがわかったり、自分の経験としてわかります。先ほどありましたよ

うに、慣れること、使ってみることがまず大事、子どもたちもそうですし、教員の先生方もそうだと思うのですけれども、多少、得手、不得手というのはあると思うので、使い慣れていく、それまでに時間がかかる教員の方もいらっしゃるかもしれないし、そういったところをご配慮いただきつつ、慣れていって使いこなせるようになることが何よりかなと感じました。

鈴木市長

- ・委員の皆様、ありがとうございました。
- ・それでは、教育長にご意見などをいただきたいと思います。

岩本教育長

- ・少しお話をさせていただきます。今週の月曜日、2月7日に文部科学大臣が令和5年度からの政府が第4期教育振興基本計画の策定を中央教育審議会に諮問したというニュースがございました。子どもたちが社会の中心となって活躍する2040年以降の社会を見据えた教育施策を検討するということですが、その中でオンライン教育などのデジタル活用、それから従来の対面授業とのバランスというのが検討課題となっていくという話がニュースでございました。今後、学校の教育について語るときにはデジタル活用は欠かせないと思いますけれども、20年後のデジタル技術というものが、今のままであるはずはございませんし、また、現在の私たちの発想ではなかなか想像することすらできないような展開になっているのだろうなと思います。
- ・そしてGIGAスクール構想ですが、本来の目的は、説明にもありましたけれども、これまでの教育実践の蓄積の上にICTを取り入れることで、学習活動を一層充実させていくというふうなことでありまして、より主体的で、より対話的で、より深い学びを目指していくというふうなことになっていると思います。
- ・ところが新型コロナウイルス感染症によって3か月の一斉休校があったりとか、そういうことがあってGIGAスクール構想が前倒しになったことで、今現在、世の中ではどうしてもGIGAスクール構想というのは、オンライン学習を実現するための取組でしょうというふうに思われがちになっております。確かに休校期間がございました。学校現場は大変苦労いたしましたので、オンライン学習がとても有効であり、その前倒しをしてまで環境整備をしていただいたことは、大きな意義がございますし、感謝をしているところでございますけれども、不登校の児童生徒にも大変有効な手段であるということもわかってまいりました。ということから、オンライン学習を目指すということもGIGAスクール構想の大きな目的の1つといってもよろしいのではないかなと思っています。
- ・一方、今、藤沢の学校の現状はどうかと思いますと、オンライン学習の状況ですが、学校によって取組に大きな差が出てきてしまっていることが現状でございます。必ずしも順調

に進んでおりますと言い切れる状況ではございません。世の中では「1人1台の端末が整ったのですから、オンライン学習はできますよね」というご意見がよくよく聞かれるわけですし、教育委員会にもまた学校にもそういった声がよくよく聞かれるところでございます。

- また、学校側としては、機械がそろったからということで、明日からオンライン授業ができるかという、なかなかそうもいかないというような部分がございます。オンライン学習を一斉にするためには、もちろんハードが必要ということで、今、1人1台の端末と比較的高速なネットワークが必要であるということ、その上に乗っかるソフトウェアがあるということ、そしてそれらを操作する技術を持っているということ、そしてその上に各教員の授業力が乗っかって、初めて授業として成り立つということだと思えます。そんな点では操作技術の部分に個人差があるということがあって、なかなか進まない部分もあるのではないかと考えています。
- また、授業ということですが、「教員免許を持っている限りは、授業は教科書さえあればできますよね」と思われがちでございますけれども、教員が教科を教えることに免許は持っていますけれども、その授業を通して、今で言えば主体的、対話的で深い学びを実現すること、そこに持っていかなければいけないということでございますので、当然、教材研究を熱心にするわけです。どんな発問をすれば、子どもたちがどんな反応が返ってくるだろうか。その反応を予測する中で、間違えた答えも切り捨てるのではなくて、そこからまた展開して、どんな印象を子どもたちにつけさせることができるか、そういうことであったりとか、また、黒板にはこんなふう書いたらいいのかとか、板書計画なんて言いますけれども、そんなことであったり、どんな資料を用意すればいいのか、こんなことに取り組んで初めて授業に臨むことができるというのが、教員が思う授業なんですけれども、なかなかこの辺が理解されない部分もございます。
- ICTの活用というのは、ここにICTを盛り込んでくるということになるわけです。しかし、今、できないことをお話しているようで大変恐縮なんですけれども、そうではなくて、さまざまな課題があっても、これからの教育は、こういったデジタルなしには語れないという話も先ほどいたしましたけれども、GIGAスクールはどんどん前に進めていく必要があると思っています。
- 教育委員会としましては、学校を支援して、とにかく力強く背中を押していくこと、これが求められているのだろうと思います。GIGAスクール構想も本来の目的、先ほど説明もありましたけれども、こういったことはもちろんのこと、オンライン学習の研究も進めていかなければいけないと思っています。まずはすべての教員が負担感なく操作できるような研修を充実させるということ、いつでも質問ができるというICT支援員の充実も教育委員会ができることではないかなと思っています。
- それから各学校では、ICTに強く若い教員がそこそこいますので、先頭になっていただいて、学校がチームとして技術力をつけていただくように教育委員会としても働きかけ

ていくということ、そして各学校の実績とかアイデアにつきましても、先ほどの説明の中にも情報共有チャットなんていうのもございましたけれども、横につなげていくということも教育委員会ができることではないかなと思います。

- ・なかなか進みにくい学校につきましても、まずはテレビ電話的な使い方は、Zoomであったりとかで、休みのときの子ども様子を学活みたいなことをやるところからスタートするとか、また、教室の後ろに1台カメラを置いて授業の様子を一方向であってもそれを送り続けるようなところから始めてみるとか、そんなようなことの働きかけを教育委員会としてはしていきたいと思っています。
- ・また、教育委員会としまして、各校の校長先生にもG I G Aスクールの本来の目的のこととか、オンライン学習のこととか、先ほどお話をした授業のことであったりとか、こういうことを丁寧に説明していただくことによって、子どもたち、保護者、地域の方々の心配を少しでも解消できるのではないかなと思いますし、何より頑張っている先生たちの励みになるように援護射撃をしなければいけないのではないかと考えております。
- ・現時点では、オンライン学習は、対面授業に変わり得る選択肢までにはまだ至っていないというふうに思います。冒頭でお話しましたように、第4期の教育振興基本計画では、デジタル活用と対面授業のバランスが検討課題と言っているということは、いずれオンライン授業と対面授業、これが対面授業に変わり得るようなレベルになっていくということが想定されているのだらうと思いますので、そこを目指さなければいけないかなと思います。
- ・現在、コロナ禍で学校現場は本当に余裕がありませんけれども、予測不能な未来を生きていく子どもたちの逞しく生きていく力を育むために、G I G Aスクール構想を今後も是非積極的に進めていきたいと考えているところでございます。

鈴木市長

- ・委員の皆様、ありがとうございました。その他はよろしいでしょうか。
(なし)
- ・今、教育長からもお話がありましたG I G Aスクール構想ということで、市としても協力して進めてきており、コロナ禍になりまして、まずは1人1台パソコンの導入を早めたところでございます。
- ・導入により保護者の皆さんの期待も大きくなってきているものと思いますが、そういう中でも教育現場の方も一生懸命頑張っているのかなと思っています。まだまだ、学校でのいろいろな使用の仕方にも強弱があったりですとか、コロナ禍のあとはどのような使い方になるのか。また、どのような課題があるのか1回立ち止まるときもあるのかもしれないけれども、さらにG I G Aスクールがよりよい方向に進んでいくことを目指しながら、皆さんと共有しながら頑張っていければと思っていますところでございます。

- ・今日は、現在、学校で行われている授業風景などを我々もなかなか知ることができなかつたのですが、大変参考になりました。これからいろいろ行われている状況を把握させていただきまして、また、保護者の皆さんにも丁寧に現状をご説明いただいて、一緒に対応していかなくてはいけないと思っておりますので、よろしく願いいたします。
- ・それでは、議事（１）についてはここまでといたします。

鈴木市長

- ・次に、議事（２）その他について、事務局からお願いいたします。

事務局

- ・事務局からは議事としては特にございませんが、令和４年度の総合教育会議の日程ですが、令和４年度につきましては、８月１９日（金）と令和５年の２月１０日（金）の２回を予定しております。議題や内容に関しては教育部と調整させていただきますが、テーマ等について何か取り上げたいことなどがございましたら、事務局までご提案いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

鈴木市長

- ・ただいま事務局から日程の説明がございました。他に委員の皆様から何かございますか。

種田委員

- ・今、子どもたちが新型コロナウイルスに感染しているという状況がありますが、今、学級閉鎖があちこちでなっていると思いますが、そのようなときにオンラインで授業をしているのでしょうか、現状を知りたいと思います。

教育指導課指導主事

- ・学級閉鎖をしているクラスについては、端末を持ち帰り、オンライン学習を行っております。

鈴木市長

- ・他になければ、事務局に進行をお返しいたします。


事務局（司会）

- ・以上をもちまして、令和３年度第２回総合教育会議を閉会といたします。
- ・委員の皆様、本日はありがとうございました。

15時15分 閉会

2022年(令和4年)3月31日

この会議の経過を記載し相違ないことを確認する。

藤沢市長 鈴木恒夫 

藤沢市教育長 岩本将宏 